

# 『徒然草』の章段内容と分類

——文体と語彙の分析資料として——

安部清哉

【要旨】本稿では、『徒然草』の語彙と文体の特徴について、章段内容および章段構成（第1部・第2部）との関連性をも考慮して分析していくために、その基礎的資料として、『徒然草』の章段内容と章段特徴「一覧表を提示する。これまで先行研究で提示されてきている『章段内容の分類案』と『各章段における諸特徴』に関する諸案・諸説を、相互に比較して見比べるために、対照可能にした一覧表である。その表に併せて、稿者が連語論的観点から分析して明らかにした、『徒然草』第1部・第2部との間で相違が認められた連語表現の分布も追記する。これまで章段内容に関する諸案のこのような比較検討は、文学の領域でも具体的にはほとんど行われてきていない。停滞している『徒然草』の日本語学的、文学的研究に今後活用し得る資料として提示する。

## 1 はじめに

『徒然草』は中世前期を代表する文学作品（所謂随筆）でもあり、これまでも、文学や思想研究はもちろん、様々な観点からの日本語学的研究がなされてきている。

『徒然草』の章段内容と分類（安部）

日本語学の中では、語彙研究の観点も含め、文体（擬古文、あるいは、和漢混淆文、和文との混合文章など）、文体と特徴的語彙との関係、文法（特に、中世前期の語法や口語研究、係結び研究ほか）、漢語研究（中世漢語、仏教的漢語）、思想・宗教的表現（主に思想史や宗教史の観点から。また、仏教、無常観、死生観等に関する研究ほか）など、多くの観点からの研究がなされてきている。

本稿は、先行研究を詳述するのが目的ではないので、特にその日本語学的研究課題については、安部（2020）でも触れているので参照いただければ幸いである。本稿の【参考文献】にも、主要な研究論文をまとめておいた。また、日本語学上の研究史については、①一九八五年頃までの研究は詳しい遠藤好英（1987）に、また、②二〇一〇年頃までの研究はそれに詳しい辛島絵美（2014）に、簡潔にまとめられているので詳細はここではそれらに譲る。

さて、『徒然草』は二〇〇〇年以降、日本語史研究の中で、中世の一資料としては利用されるものの、個別の章段解釈などを別とすれば、『徒然草』に特化しての日本語学的研究は、一時期ほど多くはないのが現状と言えよう（末尾の参考文献欄参照）。語彙研究や文体研究（擬古文、和漢混淆文）でも、やや停滞しているように見える。その理由はさまざまに考えられようが、私見ながら、新しい観点からのアプローチ、新たな切り口による分析方法が見出せないという、いわば方法的停滞が一つの要因のように思われる。

ところで、本稿執筆者は、安部（2020）において、「連語」表現や連語的節末・文末表現が、章段の文体や内容（特に第一部・第二部での相違）と密接に関連している傾向を指摘した。連語の現れ方が、章段構成や章段の文体・表現と密接に関連してくる可能性があることになる。連語は、語彙・語構成のジャンルにおける単位であるが、広義としては語彙的単位でもある。連語の出現傾向と章段とに関連性があるとすると、個々の章段で述べられている中味、つまりは章段内容がどのようなものであるのか、という章段内容の類型と語彙・文体との関連性が問題になってくる。

連語や語彙の出現傾向を、章段単位で今後分析していくためにも、『徒然草』の章段内容が、どのように典型的に分類できるのか、が今後の新たな分析視点ともなってくる。そこで、今回の調査ではひとまず手初めに、従来の研究において、『徒然草』の章段内容に依じて分類を試みている諸説を取り上げ、それらを横断的に対照して比較できるような一覧表を作成することにした。本稿で、表1として、掲載する『徒然草』の章段内容と分類「一覧表」がそれである。次の2章では、先行研究から章段内容の分類に関する論を選択・収集した観点について簡単に説明をし、次いで3章以降では、今回採用した章段分類の諸説を紹介していくこととする。

## 2 章段内容の分類案の収集

『徒然草』の章段内容の分類案を収集するにあたっては、主要諸注釈書や先行研究の中から、章段分類を試みているものを、まず探索した。その際、日本文学・日本語学・説話研究などのジャンルの相違は特に問わなかった。その段階で収集できたものは、文学的視点からの分類が主たるものであった。

ついで、全章段にわたる分類や文学的視点のみにこだわらず、何らかの観点から章段の分類を提示しているものも採用した。例えば、『枕草子』の影響のある章段、中止法の多用される章段、特徴的という接続詞類（されど、されば等）の使用される章段、説話的観点からの章段分類、本来は連続したとされる章段連続による分類、などである。それらの中から、今回採用したものは、次の3章にて具体的に示すことにする。

また、今回は参考まで、安部（2020）にて取り上げた第2部に偏在する連語ほかの現象についても比較参照のために併記することとした。文体・文章研究、語彙・連語研究の観点から、文学的分類と比較・対照していくためである。

### 3 章段内容の分類と各章段における諸特徴に関する諸説

本稿で取り上げた章段内容の分類および各章段の特徴に関する先行研究は以下のものである。

- ① 橘 純一（1947）『徒然草（日本古典全書）』（解説）朝日新聞社
- ②⑧ 鈴木一彦（1959）「徒然草の主題の展開と構文」『講座解釈と文法5』明治書院
- ③ 木藤才蔵（1977）『徒然草（新潮日本古典集成）』（解説）新潮社
- ④⑥ 西尾光一（1974）「徒然草の源泉—説話—」『徒然草講座 第四卷 言語・源泉・影響』有精堂出版
- ⑤ 三田村雅子（1974）「徒然草の源泉—枕草子—」『徒然草講座 第四卷 言語・源泉・影響』有精堂出版
- ⑦ 関根俊雄（1974）「徒然草の言語—文法—」『徒然草講座 第四卷 言語・源泉・影響』有精堂出版
- ⑨ 安部清哉（2020.1）「連語から見た『徒然草』——連語型文末表現と文体——」『シリーズ〈日本語の語彙3〉中世』朝倉書店
- ⑩ 安部清哉（2020.5予定）「連語から見た『徒然草』第1部・第2部——接続機能表現のプレ近代化と文体——」『日本近代語研究会編『論究日本近代語1』ひつじ書房

これらのうち①～⑧は、末尾に掲載した『徒然草』に関する主要な研究の中から、文字通りの意味での管見の範囲で、章段内容の分類と章段特徴に関する記述があるものを選び出したものである。見落としているものも少なくない

と思われるので、ご教示いただければ幸いです。

それぞれの研究における分類内容や基準などに関しては、次の4章にて一覧できるように掲載する。

## 4 章段の内容と諸特徴

4 — (1) 章段内容の分類に関する諸説——橋純一・鈴木一彦・木藤才蔵・西尾光一各説——

ここでは、各章段内容に関する諸説から、橋純一氏・鈴木一彦氏・木藤才蔵氏の説を取り上げる。以下に、それぞれの論文における各分類と説明部分とを順に掲載する。なお、以下では表1において略称で示した語句を太ゴチ書体にて示してある。また、各分類案での分類番号の字体・書体は、表中においては他の分類案の同じ数字との区別のため、変更したものがあある(例、1 ↓(1)、(2) ↓②、3 ↓三、など)。

① 橋 純一 (1947) 『徒然草 (日本古典全書)』(解説) 朝日新聞社

「\*の附いてゐる章段は具体的例話を伴ふものである。」

第1 処世訓 総数85段、32%

1、自然安恕の態度の勸説 (計19段)

10\*、11、35、39、53\*、54\*、63\*、72、81、82\*、113、116、124\*、127、137 (前半)、139、143、154\*、165

2、道 (専門) の尊重と得道の心掛勸説 (計18段)

『徒然草』の章段内容と分類 (安部)

3、日常言動に関する教訓（計15段）  
 51\*、52\*、70\*、80、101\*、109\*、110、114\*、145\*、146\*、150、185\*、186\*、187、193、219\*、222、238の1

7、56、57、76、77、78、79、126、164、167、168、170、232\*、233、234

4、特に儒教及び佛教の戒律的態度での人生訓（計17段）

83\*、85、91、117、122、131、134\*、142\*、171、172、175前半、206\*、207\*、211、217、224\*、229

5、特に簡素儉約の生活勸説（計9段）

2、18\*、99\*、120、123、140、184\*、215\*、216\*

6、慈悲・思ひ遣り等心の和らぎの推奨（計7段）

84\*、101\*、121、128\*、129、130、141\*

第2 広義の学問資料提供 総数67段、25%

1、考証

ア、事物に関し（計29段）

34、61、65\*、67\*、96、118\*、119\*、132\*、133\*、138\*、147、148、149、161、173\*、183、199\*、200、201、205、219\*、220、221、225\*

イ、言語・文字に関し（計19段）

226\*、227\*、228\*、238の4、239

2、故実（計19段）

33\*、48\*、64、66\*、94、95、100\*、102\*、156\*、177\*、178\*、179\*、180、196\*、203、204\*、208\*、213\*、237

14、22、158、159、160、163、169、176、181、197、198、202、205、210、214、223、238の2、3、5

- 3、趣味情操の**涵養**資料（総数27段、10%）  
 3、13、14、15、16、17、19、20、21\*、22、23、24、25、26、27、28、29、43\*、44\*、104\*、105\*、137、175後半、191、192、212、240
- 4、**女性**、結婚、色欲についての説（総数10段、4%）  
 8、9、31、32、36、37、107、190、238の7、239
- 5、**社会**、人事現象の考察（総数9段、4%）  
 12、71、73、92\*、93\*、111\*、194、235、243\*
- 6、**無常**の強調と出家又は閑居の勸説（総数22段、8%）【引用者注∥総数は22段ではなく21となっている】  
 30、41、49、58、59、74、75、93、98、108、112、137後半、151、155、157、166、174、188後半、189、241、242
- 7、**滑稽**の興味を主とした段（総数16段、6%）【引用者注∥総数は16段ではなく15となっている】  
 45\*、46\*、52\*、53\*、54\*、86\*、88\*、90\*、103\*、106\*、125\*、135\*、182\*、209\*、236
- 8、**奇聞逸話**（総数14段、5%）  
 40、42、50、60、62、68、69、87、89、115、162、195、218、230
- 9、**その他**（総数16段、6%）  
 序、1、4、5、6、38、47、55、60、69、97、144、152、153、231、238の6

② 鈴木一彦 (1959) 「徒然草の主題の展開と構文」『講座解釈と文法5』明治書院

「各段の構成」 【安部注Ⅱ分類の番号は表中ではカッコ書きの(1)～(9)及び(10)①、(10)②で示す。】

- 1 単に**主張**のみを述べたもの。  
17、55、58、59、74、81、112、113、117、120、121、122、123、127、131、140、151、155、164、166、167、168、172、187、189、192、212、234、235、240、242
- 2 一つの**主張**を文首に掲げ、次にそれを**具体化**して裏づけているもの。  
10、13、14、15、18、19、22、23、24、25、26、28、29、30、38、49、73、75、77、78、80、85、87、97、108、130、170、190、194、211、233
- 3 **実例**を掲げて、**結論的**に主題を示すもの。  
52、54、57、76、92、116、128、129、134、142、143、150、157、175、193、206、217、231
- 4 一つの**主張**を**はさんで実例を列挙**するもの。  
137、171、188
- 5 体験談あるいは見聞談を掲げ、それに対して**結論的に批判**のことばを付したものの。  
32、36、39、41、47、60、63、67、68、83、84、86、106、109、110、111、115、124、140、141、154、160、165、174、184、209、224、230、332
- 6 **体験談**あるいは見聞談を掲げ、それに対して、表立った**結論的批判**も感想も書かず、**隠に何かを主張**しているもの。  
11、33、40、43、44、45、48、53、69、70、88、89、90、93、135、136、144、145、152、153、162、186、195、196、207、215、216、236、243



7 単なる見聞を何らの主張なしに平叙したもの。

42、50、71、114、218、222、225、226

8 「枕草子」の「……は」「……もの」のような類纂的叙法によるもの。

13、16、24、72、139

9 情趣的な形容語を中心に、多くのものを列叙する型。

21、23、105、137、191

10 物語の発想によるもの。

(1) 32、43、44、104 【注Ⅱ王朝風】

(2) 45、46、50、60、62、89、90、103、106、115、125、135、162、218、230、234

【注Ⅱ説話風】

③ 木藤才蔵 (1977) 『徒然草 (新潮日本古典集成)』 (解説) 新潮社

「徒然草の内容」

I、作者の感想や意見を述べたもの (総計123段 50%)

一、人間あるいは人事について述べたもの (計118段)

(1) 人間としての生き方、身の処し方について述べたもの (計35段)

1、3、4、5、6、7、18、38、49、58、59、74、75、85、92、93、98、108、112、122、123、128、129、130、131、134、140、151、157、174、188、211、217、241、242

(2) 無常について述べたもの（計6段）

25、30、137後半、155、166、189

(3) 日常の態度や行動、人間としての営みについて述べたもの（計35段）

序、17、31、32、35、36、37、56、57、73、76、77、78、79、80、111、113、116、127、143、164、165、167、168、170、175、191、192、193、224、229、231、232、233、234

(4) 人間の心・本能・本性・心理について述べたもの（計7段）

8、9、26、71、172、194、235

(5) 友人、女、妻等について述べたもの（計5段） 【安部注Ⅱ「⑤周囲の人」】

12、107、117、190、240

(6) 住居、調度、飼育する動物、庭の草木等について述べたもの（計9段） 【注Ⅱ「⑥周囲事物」】

10、11、55、72、81、82、121、138、139

(7) 専門について述べたもの（計6段）

51、109、110、126、150、187

(8) 政治、読書、和歌、旅、音楽、言葉その他について述べたもの（計15段）

2、13、14、15、16、22、23、24、27、28、29、97、120、142、171

二、自然について述べたもの（計5段）

19、20、21、137前半、212

II、逸話・奇聞・滑稽談その他の話を記したものを（総計61段 25%）

一、逸話（名前を明記した一人物を中心にした話）を記したもの（計43段）

【注①～⑥番号】

(1) **有職故実**に関する話（計13段）

33、48、70、94、99、100、101、102、182、196、206、207、208

(2) **信仰**に関する話（計4段）

39、69、144、222

(3) **奇聞**（計2段）

42、195

(4) **滑稽な話**（計5段）

45、103、106、135、236

(5) その**人柄**や**生き方**をほうふつさせる話（計14段）

60、62、83、84、86、124、136、141、152、153、154、184、215、216

(6) **専門家**に関する話（計5段）

114、145、146、185、186

二、奇聞・滑稽談・その他を記したもの（計18段）

(1) **奇聞**（計4段）

40、50、68、230

(2) **滑稽談**（計7段）

46、52、88、89、90、125、209

『徒然草』の章段内容と分類（安部）

(3) その他（計7段）

47、53、54、87、115、162、218

Ⅲ、知識を書き留めたもの（総計54段 22%）

【注Ⅱ（一）（二）番号】

一、有職故実に関する知識を書き留めたもの（計22段）

61、63、64、65、66、91、95、118、133、147、156、177、178、183、197、198、202、203、204、205、213、237

二、有職故実以外の知識を書き留めたもの（計32段）

【注Ⅱ表中は「他の知識」】

34、67、96、119、132、148、149、158、159、160、161、163、169、173、176、179、180、181、199、200、201、210、214、219、220、221、223、225、226、227、228、239

Ⅳ、物語的な場面を描いたもの（総計4段 2%）

43、44、104、105

Ⅴ 思い出や自賛を記したもの（総計3段 1%）

41、238、243

「以上総計二百四十五段になるが、これは序段を加えた上に、第百三十七段に関しては、その前半は自然について感想を述べたもの、その後半は無常について感想を述べたものとして扱ったためである。」

④ 西尾光一（1974）「徒然草の源泉—説話『徒然草講座』第四卷 言語・源泉・影響」有精堂出版

説話的章段

○第一類	40、45、46、48、53、69、70、88、99、100、108、114、135、136、144、145、146、152、153、162、176、182、195、
196、207、222、225、226、227、228、286	
○第二類	33、39、42、47、51、52、54、60、62、68、86、87、89、94、101、102、106、115、154、177、184、185、206、
208、209、216、218、230、	
○第三類	10、66、88、107、118、128、133、134、177、188、213、231
○体験見聞伝達の章段	50、84、90、109、110、111、119、125、126、141、158、178、179、186、215、217、219、220、221、224、
232、243	

4 — (2) 章段の諸特徴に関する諸説——三田村雅子・西尾光一・関根俊雄・鈴木一彦各説——

以下では、章段における諸特徴に関する諸説を挙げる。三田村雅子氏・西尾光一氏・関根俊雄氏・鈴木一彦氏の諸説である。それぞれの論文における各分類と説明部分とを順に掲載する。

- ⑤ 三田村雅子 (1974) 「徒然草の源泉—枕草子」『徒然草講座 第四卷 言語・源泉・影響』有精堂出版  
 枕草子の影響がある章段 【安部注】『枕草子』の章段番号は「三卷本系統朝日古典全書本『枕草子』の段数である。」】

一	—	五
一六	—	二〇六・二〇七
一九	—	三・三八・一九一・二二三
二一	—	二〇九・二七六
二三	—	一八八
二四	—	二二九・二七一
二九	—	二八
三三	—	一七五
四三	—	一八四
七一	—	一四八・一四九
七二	—	一四四
七七	—	二六
七八	—	二六
七九	—	二六
一〇四	—	七〇
一〇五	—	七九・二八五
一〇七	—	四四
一三八	—	二八

一三九	—	三五・三八・六三・六四
一七〇	—	二三・二九
一七五	—	二六
一九〇	—	二二
一九一	—	一九二・二〇三
二一四	—	二〇六
二四〇	—	二五二

⑥ 西尾光一 (1974) 「徒然草の源泉—説話」『徒然草講座 第四卷 言語・源泉・影響』有精堂出版

「本来の連続章段」 (「かっこで囲んだものが第二類である。」)

45、46、(47)、48。	(51)、(52)、53、(54)。	(68)、69、70。	(86)、(87)、88、(89)。
99、100、(101)、(102)、103。	114、(115)。	135、136。	144、145、146。
176、(177)。	(184)、(185)。	195、196。	(206)、207、(208)、(209)。
		225、226、227、228。	

⑦ 関根俊雄 (1974) 「徒然草の言語—文法」『徒然草講座 第四卷 言語・源泉・影響』有精堂出版

中止法が集中する章段

『徒然草』の章段内容と分類 (安部)

第1部 1、2、3、4、7、9、10、18、25、28、30

第2部 38、55、58、59、60、73、74、75、78、80、81、107、108、112、116、117、121、128、129、134、137、141、142、150、152、155、157、167、171、172、175、188、191、240、241

⑧ 鈴木一彦(1953)「徒然草の主題の展開と構文」『講座解釈と文法5』明治書院

「接続の語」【安部注Ⅱ表1中の○の数字は用例数を示す。】

- |   |       |       |  |
|---|-------|-------|--|
| ① | かくて   | (1例)  | 19   |
| ② | さて    | (12例) | 19、48、50、52、82、87、104、142、145、196、216、226                    |
| ③ | されど   | (3例)  | 14、80、121  |
| ④ | されども  | (3例)  | 85、150   |
| ⑤ | されば   | (19例) | 9、25、26、58、79、93、107、108、112、130、134、137、142、155、188、213、219 |
| ⑥ | さるは   | (2例)  | 3、30   |
| ⑦ | さりとして | (1例)  | 3  |



⑨安部清哉 (2020.1) 「連語から見た『徒然草』——連語型文末表現と文体——」『日本語の語彙3』中世 朝倉書店

以下の4点について、表1では、安部A、安部Bの段に記号も利用して示してある。

○『とぞ。』止め

『徒然草』には単なる「とぞ」の53例中、文末が「とぞ。」として終わる「文末用法」が19例もある。【中略】さらにその19例中18例が章段末尾に現れるという特徴を示す。一方、『枕草子』には「とぞ」はあるものの「とぞ。」止めの文はない。

〔内訳〕章段末尾の18の章段（第107段の一段のみ章段中間部） Ⅱ 第46、48、70、89、94、104、116、135、144、147、152、156、176、177、184、204、225、238段。

○『(とぞ) 申しき。』止め

「とぞ（言ひける。）」に類似する末尾表現に、「申す」と過去の助動詞「き」による連語「申（し）き。」が計14例ある。そのうち、章段末（ないし文末から3文以内）に来る例が11章段ある。」

〔内訳〕章段末尾か3文以内の11の章段 Ⅱ 第66、90、119、125、126、163、179、181、186、199、219段（の中の1例）。 + 第215段（「申されき。」）（第217段と219段（の1例）は章段の前半の末尾部、220段は章段後部でほぼ終結部）

○「形容詞評価文の多用」

「第2部に集中し17章段以上はありとみられる。近い章段に連続している傾向も認められる。」

『徒然草』の章段内容と分類（安部）

〔内訳〕 第35、39、55、56、57、137、139、140、160、165、170、175、189、190、191、192、231段

○『形容詞（〜かり）＋けり。』止め

「該当するのは、以下の10の章段（4・7％）である。【引用者注Ⅱ第2部の】212章段中の○最初の1文の末尾3章段（33、39、177）。○章段末尾5章段（101、102、207、209、218）、○末尾から2文以内2章段（70。〔125段も、章段前半部の末尾2文以内〕あり、これに準じ、その後半末尾も「をかしかりき。」止め）。（なお、184段も章段末から4文目であるが、終結部3文は批評的文言。これら以外は第54・125段の2つのみ。）」

⑩安部清哉（2020予定）「連語から見た『徒然草』第1部・第2部——接続機能表現のブレ近代化と文体——」

以下の3点について、表1では、安部Cの段に記号●■▲を利用して示してある。

○「連語的接続助詞『ゆゑに』——『活用語＋ゆゑに』の用法」【表1安部C段、●記号】

「活用語接続の接続助詞的連語用法となると『枕』0例に対して、『徒然』では合計18例見られる。」

『徒然』の「ゆゑ」の活用語接続用法18例は、第四十六段（「強盗にあひたるゆゑに」）以降に現れ、第三十二段以前には現れていない。212章段中8・5％になる。」

〔内訳〕 第46、107、118、125、128、133、141、155、167、188、196、201、211、219、220、223、235、239段

○「接続助詞的連語『とこへど』と『とこへども』」【表1安部C段、■記号】

「接続機能辞の連語」「いへど(も)」「は『徒然』12例(10+2) に対して『枕』0例となる。これらは「といへども」1例が第九段にある以外は「といへども」「といへど」計11例が第2部の第三十三段以降である(第2部212章段中の5・2%)。第九段の1例も前後に仏教的漢語と対句表現があり、その1文は漢文的文脈である(上記の例参照)。このように、「といへど(も)」「は、兼好にとっては、やはり文体的相違を意識して使った連語と見ておくことができる。」

〔内訳〕第9、66、82、92、93、108(2例)、122、124、150、175、187段

○「接続助詞的連語『ものなれば』」【表1安部C段、▲記号】

「該当する10例は第十九段、第五十八段、第一百十八段2例、第二百一十二段2例、第二百二十五段、第四百四十一段、第九十一段、第二百十九段(物なれば)である。第十九段の1例以外は、例数は少ないものの第2部に偏る。その第十九段は有名な「折節の移りかはるこそ、ものごとに哀なれ。」で始まる自然論・季節論の章段であり、当該部では『源氏』『枕』を挙げて対比を意図的に行っており、むしろ作者自身の文体が強く出ているとも読めるので、それゆえの使用とも解釈できそうである。」

〔内訳〕第19、58、118(2例)、121(2例)、125、141、191、219段。

5 章段内容の分類と日本語学的特徴——文体と連語——

『徒然草』におけるいくつかの連語表現には、その出現する章段に特徴的な偏りが認められた。特に、文末の連語

表現のいくつかには、第三十三段以降のいわゆる第2部と呼ばれる部分に偏在する傾向が認められた（安部（2020.1））。文末での連語表現のみならず、接続機能表現においても、分布の偏りが認められた（安部（2020.5予定））。

そこで、本稿では表1において、試みに安部（2020.1）、安部（2020.5予定）での指摘の中から、「とぞ。」止め、「申しき。」止め、および、形容詞の多用、主題的表現部の「形容詞かりけり。」止め、などの諸特徴の分布も加えて表示しておくことにした。連語と文体と章段内容の関連性を、今後検討するための材料にするためである。

○安部清哉（2020.1）「連語から見た『徒然草』——連語型文末表現と文体——」『シリーズ〈日本語の語彙3〉中世』朝倉書店

○安部清哉（2020.予定）「連語から見た『徒然草』第1部・第2部——接続機能表現のプレ近代化と文体——」『論集日本近代語1』勉誠出版

今後、さらに多くの特徴的語彙・語句・連語をも併せて検討することによって、『徒然草』の章段内容と、文体・語彙の関連性をより詳細に検討することが可能になると思われる。

## 6 むねびつじつし

本稿では、上記4章で示した『徒然草』の章段に関する章段内容の分類諸案および各章段の諸特徴、さらに、5章に示した連語表現の一部を、後掲の表1『『徒然草』の章段内容と章段特徴』として提示する。

そこにおける諸データ相互の比較検討は今後の課題とするが、このような多くの分類、分析の積み重ねによって、

『徒然草』の文体、表現、語彙、連語などの比較研究が、さらに進展することを期待していきたい。

【付記①】本稿は、安部（2020.1）のいわゆる講座物での『徒然草』の拙文を構想した折に準備した資料である。そこでの参考文献一覧は編集方針のため、五十音順であるが、研究史が把握しにくいので、本稿では年代順で示してある。

【付記②】本稿は次の研究費による研究成果の一部である。日本学術振興会科学研究費2017-2019年度基盤研究C（基金）、課題番号：17K02785、代表：安部、「古典日本語の連語構成・詞辞複合表現形式の通時的基礎研究」

【参考文献（抄録）】『徒然草』関係の日本語学における主要論文を年代順に掲載する。文学関係・注釈書類は一部のみ。冒頭の○印は雑誌『国文学』特集号ほか。

- 至文堂編集部（1953年3月）「特集・徒然草の研究」『国文学解釈と鑑賞』18-3（202）
- 学燈社編集部（1957年2月）「特集・徒然草の総合探求」『國文學解釈と教材の研究』2-2
- 至文堂編集部（1957年12月）「特集・徒然草の新しい研究と展望」『国文学解釈と鑑賞』22-12（259）
- 学燈社編集部（1967年10月）「特集・徒然草の魅力をさぐる」『國文學解釈と教材の研究』12-12
- 『月刊文法』編集部（1970年）「特集『徒然草』の助詞・助動詞」『月刊文法』2-10
- 武田祐吉（1935）『新解徒然草』山海堂
- 橘 純一（1947）『徒然草（日本古典全書）』（解説）朝日新聞社
- 西宮一民（1951）『徒然草の文章』『国語国文』20-7（207）
- 根来司（1954）「中世人と中古語—文語研究への一課題—」『国語学』19
- 堀田要治（1995）『徒然草の解釈文法』『時代別作品別解釈文法』至文堂

『徒然草』の章段内容と分類（安部）

『徒然草』の章段内容と分類（安部）

一〇八

- 中村幸彦 (1965) 『擬古文』『国文学解釈と鑑賞』20-6
- 堀田要治 (1965) 『徒然草の解釈文法』『時代別作品別解釈文法』
- 松村明 (1957) 『国語史からみた徒然草』『国文学解釈と鑑賞』22-12 (259)
- 森重敏 (1958) 「つれづれ草の『侍り』をめぐって—敬語を規定する『公』と『私』—」『女子大国文』8 (森重敏著『日本文法の諸問題』に収録)
- 西尾実 (1964) 『つれづれ草文学の世界』法政大学出版社
- 白石大二 (1969) 『徒然草と中世語法』『講座解釈と文法5』明治書院
- 鈴木一彦 (1969) 『徒然草の主題の展開と構文』『講座解釈と文法5』明治書院
- 中田祝夫 (1962) 『徒然草の二文脈—和文脈と訓読語脈』『国文学解釈と鑑賞』27-12
- 安良岡康作 (1968) 『徒然草全釈』解説
- 安良岡康作 (1969) 『徒然草における文体の問題』『国文学解釈と教材の研究』14-4
- 白石大二 (1969) 『徒然草の文法』『日本文法講座4 解釈文法』明治書院
- 田辺爵 (1970) 『擬古文としての『徒然草』の文体』『月刊文法』2-10
- 細谷直樹 (1970) 『徒然草の語形のゆれをめぐって』『国語と国文学』47-6
- 白石大二 (1970) 『徒然草』における助動詞「き」「けり」『月刊文法』2-7
- 中田祝夫 (1970) 『徒然草』と漢文訓読雑考『月刊文法』2-10
- 佐藤喜代治 (1970) 『徒然草の執筆意図』『月刊文法』2-10
- 木村 健 (1971) 『徒然草』における係助詞—「こそ」「ぞ」の偏在について—『中央大学国文』14
- 西尾寅弥 (1974) 『徒然草・方丈記の敬語』『敬語講座3 中世の敬語』明治書院
- 山口明穂 (1974) 『兼好法師の言語観』『徒然草講座 第四卷 言語・源泉・影響』有精堂出版
- 三田村雅子 (1974) 『徒然草の源泉 枕草子』『徒然草講座 第四卷 言語・源泉・影響』有精堂出版
- 福島邦道 (1974) 『中世国語史における徒然草』『徒然草講座 第四卷 言語・源泉・影響』有精堂出版
- 増淵恒吉 (1974) 『徒然草の言語 文章』『徒然草講座 第四卷 言語・源泉・影響』有精堂出版

- 西尾光一 (1974) 『徒然草の源泉—説話』『徒然草講座 第四卷 言語・源泉・影響』有精堂出版
- 関根俊雄 (1974) 『徒然草の言語—文法』『徒然草講座 第四卷 言語・源泉・影響』有精堂出版
- 木藤才蔵 (1977) 『徒然草 (新潮日本古典集成)』(解説)、新潮社
- 蜂谷清人 (1981) 『中世語彙の概説』佐藤喜代治編『講座日本語の語彙 第4卷中世の語彙』明治書院
- 青木伶子 (1981) 『隨筆の語彙—徒然草—』佐藤喜代治編『講座日本語の語彙 第4卷中世の語彙』明治書院
- 堀田要治 (1983) 『徒然草の解釈文法』『国文学解釈と鑑賞』48-2
- 森由美子 (1986) 『徒然草』における助動詞「き」「けり」の再検討『花園大学国文学論究』14
- 遠藤好英 (1987) 『徒然草』の文章試論—文末表現から—『文芸研究』114
- 久保田淳校註 (1989) 『新日本古典文学大系 三九 方丈記 徒然草』岩波書店
- 山口雄輔 (1991) 『常縁本『徒然草』の係り結び—分布の型と用法の展開—』『文教大学国文』20
- 山口雄輔 (1992) 『徒然草』章段内容に係り結び』『文教大学国文』21
- 半藤英明 (1992) 『係結びのもたらす「強調」の性格—「枕草子」「徒然草」の「こそ」の場合—』『計量国語学』18 5
- 細谷直樹 (1994) 『方丈記・徒然草論』笠間書院
- 小野正弘 (1994) 『正徹本 徒然草』の和語のかなづかい』『国語論究 5 中世語の研究』明治書院
- 山内洋一郎 (1996) 『山路の露』の語彙—擬古文の語彙の特色を考える—』山内洋一郎編『源氏物語外篇 山路の露本文と総索引』笠間書院
- 山本真吾 (1999) 『兼好の言語規範意識の一側面—「徒然草」第百六十段(門に額かくるを)を手懸りとして—』『人文論叢』11 (三重大学)
- 半藤英明 (2002) 『徒然草に於ける『ぞ』と『こそ』の近似性』『国文研究』47
- 小池清治 (2005) 『徒然草』の文体は明晰か?』『宇都宮大学国際学部研究論集』20
- 中野貴文 (2006) 『心構えの重視—「徒然草」のディレクティブリズム—』『国語国文』75-7
- 齋藤彰 (2010) 『徒然草の表現—へべし・べからず—の用法にみる兼好の論理—』『学苑』831
- 中野貴文 (2011) 『徒然草』の書き手』『文学』12-1

辛島美絵（2014）「日本語史資料としての仮名文書—仮名文書と『徒然草』—」『九州産業大学国際文化学部紀要』57

安部清哉（2020.1）「連語から見た『徒然草』——連語型文末表現と文体——」『シリーズ〈日本語の語彙3〉中世』朝倉書店

安部清哉（2020.3）『徒然草』の章段内容と分類』『学習院大学文学部研究年報』66（本稿）

安部清哉（2020.3）「連語から見た『徒然草』第1部・第2部——接続機能表現のプレ近代化と文体——」日本近代語研究会編

『論究日本近代語1』勉誠出版

安部清哉・蜂尾みやび（2020.3）『徒然草』における「あはれ」の現れ方——第1部・第2部の文体と擬古的側面』『学習院大学

国語国文学』63

安部清哉・川澄香奈（2020.3）『徒然草』の連語『覚えし』と文体』『学習院大学日本語日本文学』16

安部清哉・川口結（2020.予定）『徒然草』の連語『さも』』『学習院大学教職課程研究年報』6



表1 『徒然草』の章段内容と章段特徴

22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	序	章段	分類
				*5 俟約	三滴養	三滴養	三滴養	三滴養	三滴養	五社会	1 態度	*1 態度	四女性	四女性	3 教訓	九其他	九其他	九其他	三滴養	5 俟約	九其他	九其他	第1の1~5	橋純一全書 1947
								イ言語三滴養	三滴養													第2~第9	橋純一全書 1947	
(2)主張具体化	(9)形容語列叙	(2)主張具体化	(2)主張具体化	(1)主張	(8)類纂叙法	(2)主張具体化	(8)その他	(8)その他	(8)類纂叙法	(2)主張具体化	(6)体験談主張	(2)主張具体化												鈴木一彦 1959
(8)その他	(1)自然	(2)自然	(1)生き方	(3)行動	(8)その他	(8)その他	(8)その他	(8)その他		(5)周囲の人	(6)周囲事物	(6)周囲事物	(4)本性	(1)生き方	(1)生き方	(1)生き方	(1)生き方	(1)生き方	(1)生き方	(8)その他	(1)生き方	(3)行動	感想意見 (許123段)	木藤集成 1977
																							II III IV V	木藤集成 1977
											三類												説話的類 型分類	西尾光一 1974
22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	序	章段	特徴
188	209・276	338 191 213				206・207															5	序 跋・210	枕草子の 影響(枕 の章段)	諸相 三田村 1974
																							連続章段	西尾光一 1974
				中止法								中止法	中止法	中止法	中止法	中止法	中止法	中止法	中止法	中止法	中止法	中止法	中止法集 中章段	関根俊雄 1974
			かくて①、 さて⑫					されど③					されば⑬						さりとして①	さるは②、 さりとて①			接続詞	鈴木一彦 1959
																							◆形容詞 多くとそ り止め	安部 A
																							◇形容詞 けり止め しきしき 止め	安部 B
			▲										■										●活ゆる18 も12▲物 なれば10	安部 C
22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	序	章段	

『徒然草』の章段内容と分類(安部)

## 『徒然草』の章段内容と分類(安部)

分類	橋全書①	橋全書②	鈴木	木藤Ⅰ	木藤Ⅱ～Ⅴ	西尾①	特徴	三田村	西尾②	関根	鈴木	安部A	安部B	安部C
23		三涵養	(9)形容語列叙	(8)その他			23							
24		三涵養	(2)主張具体化	(8)その他			24	229・271						
25		三涵養	(2)主張具体化	(8)その他			25			中止法	されば <sup>19</sup>			
26		三涵養	(2)主張具体化	(4)本性			26			中止法	されば <sup>19</sup>			
27		三涵養	(2)主張具体化	(8)その他			27			中止法				
28		三涵養	(2)主張具体化	(8)その他			28			中止法				
29		六無常	(2)主張具体化	(2)無常			29				さるは <sup>2</sup>			
30		四女性	(5)事例と批判	(3)行動			30							
31		四女性	(5)事例と批判	(3)行動			31							
32		*二故実	(6)体験談主張	(1)奇聞	有職故実	二類	32	175				◆		
33		ア事物	(6)体験談主張	(1)奇聞	□他の知識		33					◆	◇	
34		1態度	(5)事例と批判	(3)行動			34							
35		四女性	(5)事例と批判	(3)行動			35							
36		四女性	(5)事例と批判	(3)行動			36							
37		四女性	(5)事例と批判	(3)行動			37							
38		九其他	(2)主張具体化	(1)生き方			38			中止法				
39		*一態度	(5)事例と批判	(2)信仰		二類	39					◆		
40		八逸話	(6)体験談主張	(1)奇聞	V思い出	一類	40						◇	
41		六無常	(5)事例と批判	V思い出		一類	41							
42		八逸話	(7)事例平叙	⑤奇聞	IV物語場面	一類	42							
43		*三涵養	(6)体験談主張	IV物語場面	IV物語場面	一類	43	184						
44		*三涵養	(6)体験談主張	IV物語場面		一類	44							
45		*七滑稽	(6)体験談主張	④滑稽		一類	45		◎					
46		*七滑稽	(6)体験談主張	④滑稽		一類	46		◎					
47		九其他	(5)事例と批判	(3)その他		一類	47		◎					
48		*二故実	(6)体験談主張	①有職故実		一類	48		◎		ちつと <sup>12</sup>	「ハハ」		
49		六無常	(2)主張具体化	(1)生き方		一類	49					「ハハ」		●

『徒然草』の章段内容と分類(安部)

79	78	77	76	75	74	73	72	71	70	69	68	67	66	65	64	63	62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	分類
3教訓	3教訓	3教訓	3教訓				1態度		*2道							*1態度						3教訓	3教訓			*1態度	*2道	*2道		橋全書①
				六無常	六無常	五社会	五社会	五社会	八逸話九其他	八逸話	*ア事物	*ア事物	*ア事物	*ア事物	二故実	八逸話	ア事物	八逸話九其他	六無常	六無常				九其他	*七滑稽	*七滑稽	*七滑稽		八逸話	橋全書②
(2)主張具体化	(2)主張具体化	(3)実例結論	(2)主張具体化	(1)主張	(2)主張具体化	(8)類纂叙法	(7)事例平叙	(6)体験談主張	(6)体験談主張	(5)事例と批判	(5)事例と批判				(5)事例と批判	00②説話風	00②説話風	(5)事例と批判	(1)主張	(1)主張	(3)実例結論	(3)実例結論	(1)主張	(3)実例結論	(3)実例結論	(3)実例結論	00②説話風	(7)事例平叙	鈴木	
③行動	③行動	③行動	③行動	①生き方	③行動	④本性	⑥周囲事物												①生き方	①生き方	③行動	③行動	⑥周囲事物			⑦専門		木藤I		
								①有職故実	②信仰	(1)奇聞	(1)他の知識	(1)有職知識	(1)有職知識	(1)有職知識	⑤人柄	(1)有職知識	⑤人柄									(3)その他	(2)滑稽談	(3)その他	(1)奇聞	木藤II-V
							一類	一類	二類	三類					二類	二類									二類	二類	二類	伝達	西尾①	
79	78	77	76	75	74	73	72	71	70	69	68	67	66	65	64	63	62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	特徴
26	26	26					144	148・149																						三田村
							◎	◎	◎																◎	◎	◎	◎		西尾②
	中止法			中止法	中止法	中止法												中止法	中止法	中止法				中止法					関根	
	されば⑭							「とぞ。」																			さて⑫	さて⑫	鈴木	
								◇				「申しき。」											◆	◆	◆					安部A
									◇																					安部B
																														安部C
79	78	77	76	75	74	73	72	71	70	69	68	67	66	65	64	63	62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	

『徒然草』の章段内容と分類(安部)

108	107	106	105	104	103	102	101	100	99	98	97	96	95	94	93	92	91	90	89	88	87	86	85	84	83	82	81	80	分類
							*2道 *6慈悲	*1故実	*5俟約	六無常	九其他	了事物	二故実	一故実	*五社会 *六無常	*五社会	4人生訓	*七滑稽	八逸話	*七滑稽	八逸話	*七滑稽	4人生訓	*6慈悲	*4人生訓	*1態度	1態度	2道	橋全書①
六無常	四女性	*七滑稽	*三涵養	*三涵養	*七滑稽	*二故実					(2)主張具体化				(6)体験談主張	(3)実例結論												橋全書②	
(2)主張具体化	10②説話風	(5)事例と批判	(9)形容語列叙	10①王朝風	10②説話風						(2)主張具体化				(6)体験談主張	(3)実例結論												鈴木	
①生き方	⑤周囲の人									①生き方	⑧その他				①生き方	①生き方							①生き方			⑥周囲事物	③行動	木藤Ⅰ	
		④滑稽	IV物語場面	IV物語場面	④滑稽	①有職故実	①有職故実	①有職故実	①有職故実		□他の知識	□他の知識	①有職故実		(-)有職知識	(2)滑稽談	(2)滑稽談	(2)滑稽談	(3)その他	⑤人柄	⑤人柄	⑤人柄				⑥周囲事物	③行動	木藤Ⅱ～Ⅴ	
		三類	一類		一類	二類	二類	一類	一類			二類				伝達	一類	一類	二類	一類	二類	一類						西尾①	
108	107	106	105	104	103	102	101	100	99	98	97	96	95	94	93	92	91	90	89	88	87	86	85	84	83	82	81	80	特徴
	44		79・285	70																								三田村	
					◎	◎	◎	◎	◎										◎	◎	◎	◎						西尾②	
中止法	中止法			さて⑫																								関根	
されば⑭	されば⑭			さて⑫																								鈴木	
				「とぞ。」																								安部A	
					◇	◇																						安部B	
■	●																											安部C	
108	107	106	105	104	103	102	101	100	99	98	97	96	95	94	93	92	91	90	89	88	87	86	85	84	83	82	81	80	

『徒然草』の章段内容と分類（安部）

136					(6) 体験談主張											136										136	
135		* 七滑稽			(10) 説話風					⑤ 人柄	④ 滑稽	◎					135		◎							135	
134	* 4 人生訓				(6) 体験談主張	① 生き方					④ 滑稽			中止法		されば <sup>19</sup>			中止法							134	
133	* ア 事物				(3) 実例結論	③ 行動					(-) 有職知識															133	
132	* ア 事物				(1) 主張	⑦ 専門					(□) 他の知識															132	
131	4 人生訓				(1) 主張	① 生き方																				131	
130	6 慈悲				(2) 主張具体化	① 生き方								中止法		されば <sup>19</sup>			中止法							130	
129	6 慈悲				(3) 実例結論	① 生き方								中止法					中止法							129	
128	* 6 慈悲				(3) 実例結論	③ 行動																				128	
127	1 態度				(1) 主張	⑦ 専門																				127	
126	3 教訓				(10) 説話風						(2) 滑稽談															126	
125		* 七滑稽									② 滑稽談															125	
124	* 1 態度				(5) 事例と批判					⑤ 人柄																124	
123	5 儉約				(1) 主張	① 生き方																				123	
122	4 人生訓				(1) 主張	① 生き方																				122	
121	6 慈悲				(1) 主張	⑥ 周囲事物								中止法		されど <sup>3</sup>			中止法							121	
120	5 儉約				(1) 主張	⑧ その他																				120	
119		* ア 事物									(□) 他の知識															119	
118		* ア 事物									(-) 有職知識															118	
117	4 人生訓				(1) 主張	⑤ 周囲の人								中止法					中止法							117	
116	1 態度				(3) 実例結論	③ 行動																				116	
115		八逸話			(10) 説話風						(3) その他															115	
114	* 2 道				(7) 事例平叙						⑥ 専門家	◎														114	
113	1 態度				(1) 主張	③ 行動																				113	
112		六無常			(1) 主張	① 生き方								中止法		されば <sup>19</sup>			中止法							112	
111		* 五 社会			(5) 事例と批判	⑦ 専門																				111	
110	2 道				(5) 事例と批判	⑦ 専門																				110	
109	* 2 道				(5) 事例と批判	⑦ 専門																				109	
		橋全書①			鈴木	木藤 I				木藤 II-V	西尾①																
		橋全書②			鈴木	木藤 I				木藤 II-V	西尾①																

## 『徒然草』の章段内容と分類(安部)

164	163	162	161	160	159	158	157	156	155	154	153	152	151	150	149	148	147	146	145	144	143	142	141	140	139	138	137	分類	
3教訓	イ言語	八逸話	ア事物	イ言語	イ言語	イ言語	六無常	*二故実	六無常	*一態度	九其他	九其他	六無常	2道	ア事物	ア事物	ア事物	*2道	*2道	九其他	1態度	*4人生訓	*6慈悲	5候約	1態度	*ア事物	前半(1態度) 三涵養後半(六無常)	橋全書① 橋全書②	
(1)主張		⑩②説話風	(6)体験談主張	(5)事例と批判		(3)実例結論	(1)主張	(5)事例と批判	(6)体験談主張	(6)体験談主張	(6)体験談主張	(1)主張	(3)実例結論					(6)体験談主張	(6)体験談主張	(3)実例結論	(3)実例結論	(5)事例と批判	(5)事例と批判	(1)主張	(8)類纂叙法	(4)実例列挙 (9)形容語列叙	鈴木		
③行動							①生き方	②無常				①生き方	⑦専門							③行動	⑧その他		①生き方	⑥周囲事物	⑥周囲事物 (○)自然	後半(②無常)前半	木藤Ⅰ		
	□他の知識	③その他	□他の知識	□他の知識	□他の知識	□他の知識	(-)有職知識		⑤人柄	⑤人柄	⑤人柄		□他の知識	□他の知識	□他の知識	□他の知識	□他の知識	⑥専門家	⑥専門家	②信仰		⑤人柄						木藤ⅡⅤ	
		一類				伝達			一類	一類	一類							一類	一類	一類		伝達						西尾①	
164	163	162	161	160	159	158	157	156	155	154	153	152	151	150	149	148	147	146	145	144	143	142	141	140	139	138	137	特徴	
																									35 38 63 64	28		三田村	
																													西尾②
							中止法	中止法				中止法	中止法	中止法									中止法	中止法			中止法		関根
								されば⑭						されども⑮					さて⑯				さて⑰、 れば⑱、さ				されば⑰		鈴木
								「とぞ。」				「とぞ。」													◆	◆	◆		安部A
																													安部B
								●						■										●					安部C
164	163	162	161	160	159	158	157	156	155	154	153	152	151	150	149	148	147	146	145	144	143	142	141	140	139	138	137		

『徒然草』の章段内容と分類(安部)

193	192	191	190	189	188	187	186	185	184	183	182	181	180	179	178		177	176	175	174	173	172	171	170	169	168	167	166	165	分類
2道						2道	2道	*2道	*5俟約										前半(4人生訓)			4人生訓	3教訓	4人生訓	3教訓	3教訓	3教訓	1態度	橋全書①	
	三涵養				後半(六無常)					ア事物									イ言語						イ言語		六無常		橋全書②	
	(3)実例結論	(1)主張	(9)形容語列叙	(2)主張具体化	(1)主張	(4)実例列挙	(6)体験談主張	(5)事例と批判											(3)実例結論	(5)事例と批判		(1)主張	(4)実例列挙	(2)主張具体化	(1)主張	(1)主張	(1)主張	(5)事例と批判	鈴木	
	③行動	③行動	③行動	⑤周囲の人	②無常	⑦専門													③行動	①生き方		④本性	③行動	③行動	③行動	③行動	②無常	③行動	木藤I	
							⑥専門家	⑤人柄	①有職知識	①有職故実	①他の知識	①他の知識	①他の知識	①他の知識	①有職知識	①有職知識	①他の知識	①他の知識	①他の知識	①他の知識						①他の知識				木藤II-V
					三類		伝達	二類	一類	一類			伝達	伝達	伝達	二類三類	二類三類	一類								①他の知識				西尾①
193	192	191	190	189	188	187	186	185	184	183	182	181	180	179	178		177	176	175	174	173	172	171	170	169	168	167	166	165	特徴
		192・203	22																26					23・29						三田村
								◎	◎								◎													西尾②
		中止法			中止法														中止法			中止法	中止法				中止法			関根
					されば⑩															中止法										鈴木
	◆	◆	◆	◆					「とぞ。」										◆					◆				◆	安部A	
									「申しき。」	◇		「申しき。」																		安部B
			▲			●	■																				●			安部C
193	192	191	190	189	188	187	186	185	184	183	182	181	180	179	178		177	176	175	174	173	172	171	170	169	168	167	166	165	

## 『徒然草』の章段内容と分類(安部)

223	222	221	220	219	218	217	216	215	214	213	212	211	210	209	208	207	206	205	204	203	202	201	200	199	198	197	196	195	194	分類	
	2道			*2道		4人生訓	*5儉約	*5儉約			4人生訓					*4人生訓	*4人生訓													橋全書①	
	イ言語		ア事物	*ア事物	八逸話					イ言語	三滴養		イ言語	*七滑稽	*二故実				*二故実			イ言語	ア事物	ア事物	*ア事物	イ言語	イ言語	*二故実	八逸話	五社会	橋全書②
	(7)事例平叙			(10)②説話風	(7)事例平叙	(3)実例結論	(6)体験談主張	(6)体験談主張		(1)主張	(2)主張具体化		(5)事例と批判	(6)体験談主張	(3)実例結論												(6)体験談主張	(6)体験談主張	(2)主張具体化	鈴木	
				①生き方			①生き方			①生き方	②自然																		④本性	木藤Ⅰ	
	□他の知識	②信仰	□他の知識	□他の知識	(3)その他	⑤人柄	⑤人柄	□他の知識	(-)有職知識			□他の知識	(2)滑稽談	①有職故実	①有職故実	①有職知識	(-)有職知識	(-)有職知識	(-)有職知識	(-)有職知識	□他の知識	□他の知識	□他の知識	□他の知識	(-)有職知識	(-)有職知識	⑥奇聞	①有職故実		木藤Ⅱ～Ⅴ	
	一類	伝達	伝達	伝達	二類	伝達	一類	伝達	三類			二類	一類	一類	一類												一類	一類		西尾①	
223	222	221	220	219	218	217	216	215	214	213	212	211	210	209	208	207	206	205	204	203	202	201	200	199	198	197	196	195	194	特徴 三田村	
									206																						
																															西尾②
																															関根
					されば⑭		さて⑫			されば⑭																	さて⑫				鈴木
																															安部A
																															安部B
●												●											●								安部C
223	222	221	220	219	218	217	216	215	214	213	212	211	210	209	208	207	206	205	204	203	202	201	200	199	198	197	196	195	194		



『徒然草』の章段内容と分類（安部）

243	242	241	240	239	238	237	236	235	234	233	232	231	230	229	228	227	226	225	224	分類	
					道 <sup>238</sup> の1 (2)				3教訓	3教訓	*3教訓			4人生訓						*4人生訓	橋全書①
*五社会	六無常	三涵養	ア事物四女性 (九其他)		4 (ア事物) 2、 3、5 (イ言語) 7 (四女性) 6	二故実	七滑稽	五社会				九其他	八逸話		*ア事物	*ア事物	*ア事物	*ア事物			橋全書②
(6)体験談主張	(1)主張	(1)主張					(6)体験談主張	(1)主張	00 (1)主張 00 (2)説話風	(2)主張具体化	(3)実例結論	00 (2)説話風	(5)事例と批判			(7)事例平叙	(7)事例平叙	(5)事例と批判			鈴木
①生き方	⑤周囲の人		□他の知識		V 思い出		④本性	③行動	③行動	③行動	③行動	③行動	③行動					③行動			木藤 I
V 思い出						④有職知識							(1)奇聞		□他の知識	□他の知識	□他の知識	□他の知識			木藤 II ~ V
伝達							一類			伝達	三類	二類	二類	一類	一類	一類	一類	一類	伝達		西尾①
243	242	241	240	239	238	237	236	235	234	233	232	231	230	229	228	227	226	225	224	特徴	
			252																		三田村
															◎	◎	◎	◎			西尾②
		中止法	中止法																		関根
			されども⑧									◆						さて⑫			鈴木
					「とぞ。」														「とぞ。」		安部 A
																					安部 B
			●					●													安部 C
243	242	241	240	239	238	237	236	235	234	233	232	231	230	229	228	227	226	225	224		

